

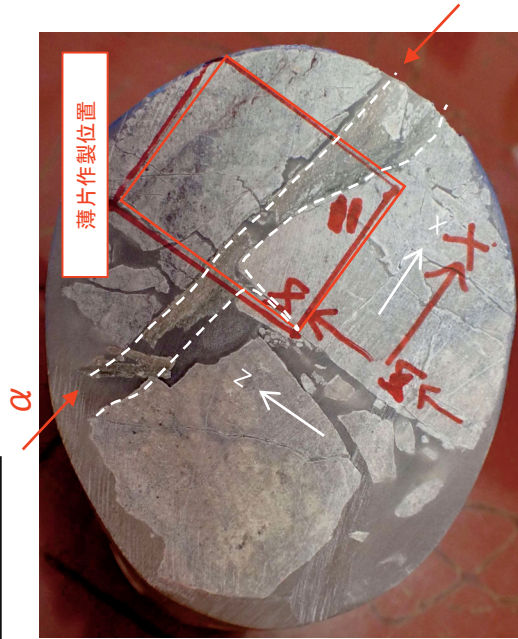
・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

コア写真

※断層面 α は最新活動面



薄片作製位置写真

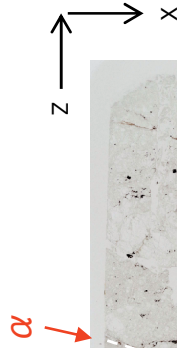


X: 糸線方向(下向きを正とする)
 Z: 断層面の法線方向(上向きを正とする)

凡例



薄片全景写真(単ニコル)

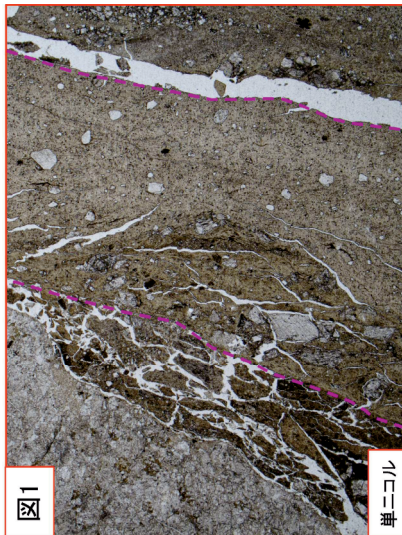
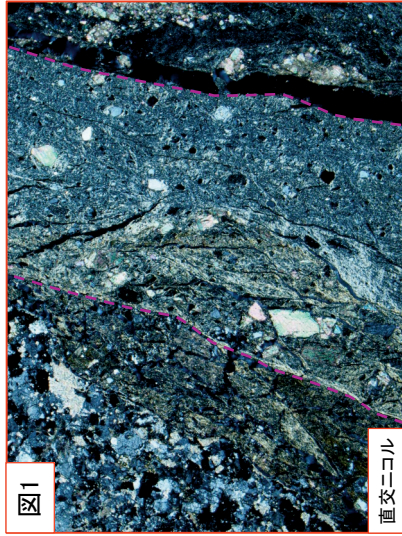
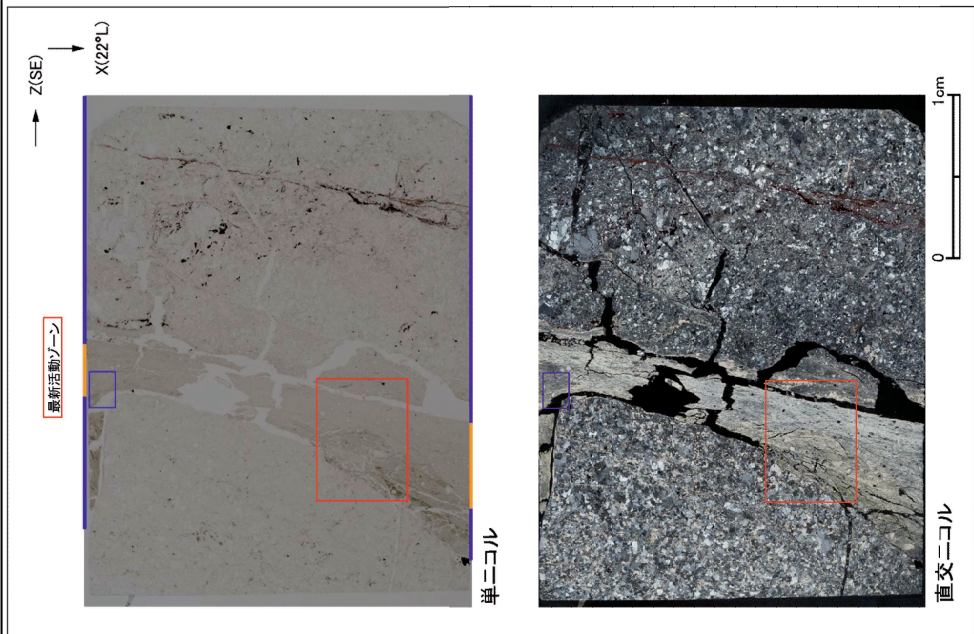


X: 糸線方向(下向きを正とする)
 Z: 断層面の法線方向(上向きを正とする)

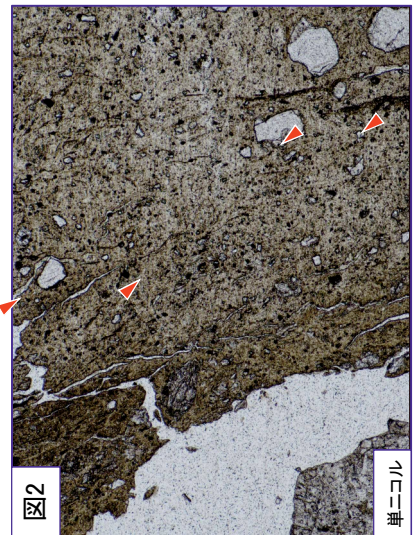
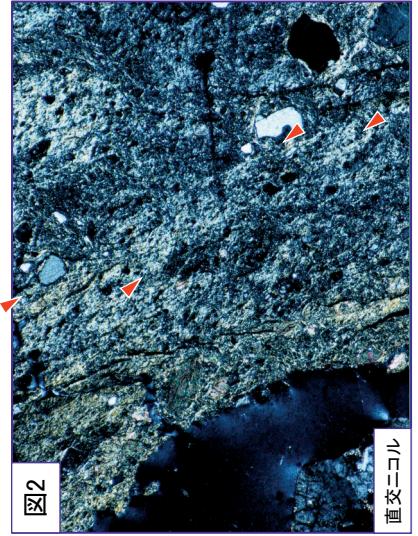
1 cm

・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。

- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図1)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1, 2)
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図2)
- 岩片は少ない。(図1, 2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図1, 2)



破線は粘土状部の分布を示す



赤三角は粘土鉱物の定向配列を示す

(肉眼観察結果 深度133.38m)

- 深度133.38～133.40mの「粘土状」と記載の箇所については、粘土は軟質で、連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
 - 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - セン断層構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
 - 丸みを帯びている岩片が多い。
- 薄片観察では、カタクレーサイトの特徴が認められなかった。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- 肉眼観察で確認された「粘土状」と記載の箇所については、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

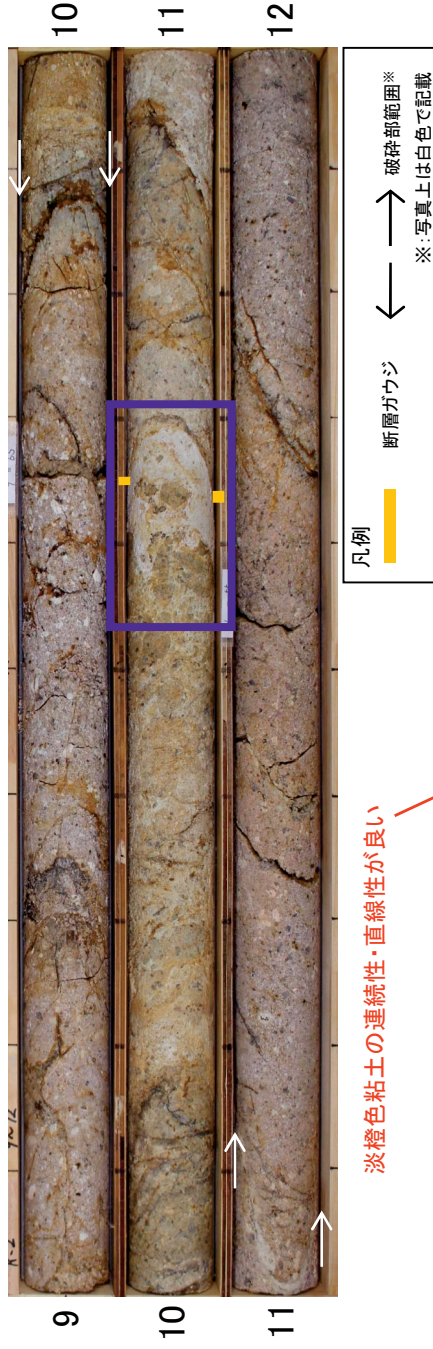
断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・変形構造 *
有	1.2	無

*:断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

- ・深度9.92～10.19mの「砂混じり角礫状」と記載の箇所については、やや硬質であるが、含まれる細粒部は局部的に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質した方タクレーサイトであると判断した。
- ・深度10.19～10.61mの「粘土・砂質角礫状」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は不規則な形状で分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
- ・深度10.61～10.70mの「礫混じり砂質粘土状」と記載の箇所については、軟質で、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められないが、細粒部は膨縮し、連続性及び直線性に乏しい。これらのことから変質したカタクレーサイト中の粘土脈であると判断した。
- ・深度10.70mには淡橙色粘土を挟在している。粘土は軟質で、連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

ボーリング柱状図

- 9.92～11.01m：破砕部
- 9.92～10.19m：砂混じり角礫状部（Hj）。上端43°，下端70°。やや硬質。灰黄色を呈する。灰白色粘土が局部的に分布する。
- 10.19～10.61m：粘土・砂質角礫状部（Hb）。下端38°。不規則な形状で粘土化している。やや軟質。浅黄色を呈する。
- 10.61～10.70m：灰白色を呈する礫混じり砂質粘土状部（Hc-2）。軟質。幅2～60mmと膨縮する。下端に傾斜61°で幅4mm程度の軟質な淡橙色粘土（Hc-1）を伴う。
- 10.70～10.90m：砂混じり角礫状部（Hj）。下端60°。破砕の程度は弱く、やや硬質。灰黄色を呈する。
- 10.90～11.01m：粘土・角礫質砂状部（Hb）。強く変質し、やや軟質。灰白色を呈する。下端に傾斜77°で幅5mm程度の軟質な灰白色粘土を挟む。



青枠部拡大

・深度10.70～10.90mの「砂混じり角礫状」と記載の箇所については、やや硬質であるが、含まれる細粒部は局所的に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

・深度10.90～11.01mの「粘土・角礫質砂状」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化された岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

・深度11.01mには灰白色粘土を挟んでいる。粘土は軟質で、直線的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められないが、連続性に乏しい。これらのことから変質したカタクレーサイト中の粘土脈であると判断した。

ボーリング柱状図

- 9.92～11.01m：破砕部
- 9.92～10.19m：砂混じり角礫状部 (Hj)。上端43°、下端70°。やや硬質。灰黄色を呈する。灰白色粘土が局所的に分布する。
- 10.19～10.61m：粘土・砂質角礫状部 (Hb)。下端38°。不規則な形状で粘土化している。やや軟質。浅黄色を呈する。
- 10.61～10.70m：灰白色を呈する礫混じり砂質粘土状部 (Hc-2)。軟質。幅2～60mmと膨縮する。下端に傾斜61°で幅4mm程度の軟質な淡橙色粘土 (Hc-1) を伴う。
- 10.70～10.90m：砂混じり角礫状部 (Hj)。下端60°。破砕の程度は弱く、やや硬質。灰黄色を呈する。
- 10.90～11.01m：粘土・角礫質砂状部 (Hb)。強く変質し、やや軟質。灰白色を呈する。下端に傾斜77°で幅5mm程度の軟質な灰白色粘土を挟む。

コア写真

